



## 対立よりもグルメを — タイで考えた地政学と健康 —

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

国際医療協力局 人材開発部 研修課 医師 河内宣之

最近、ニュースなどを見ていると「地政学」という言葉をよく目にするかもしれませんが、グローバルヘルスの世界でも注目されていることをご存知でしょうか。「地政学」とは、少し耳慣れないという方がいるかもしれませんが、簡単にいうと「国同士の地理的な位置関係が、どのように国際関係に影響するのか」を研究する学問のことです。日本やイギリスのように周りを海に囲まれている島国なのか、ラオスやザンビアのように大陸のなかに位置する内陸国なのか。国家の戦略は、そういった地理的要因に大きな影響を受けます。ニュースなどで用いられている「地政学的リスク」という言葉は、地理的な位置関係による国同士の緊張の高まりが、地域や世界経済に影響を与えるリスクのことを指しています。

本題に入る前に、「地政学」に関心を持ってもらうために、少し前に読んだ漫画が面白かったので紹介したいと思います。地政学リスクコンサルタン

トの女性を主人公にした『紛争でしたら八田まで』（田素弘/講談社）という漫画があります。国際情勢を描いた名作漫画『ゴルゴ13』に影響を受けているらしく、『ゴルゴ13』への愛を表明してきた麻生太郎副総理も記者会見で言及したことがあるとか。言語、文化、歴史、宗教、政治、経済、軍事などあらゆることを頭に詰め込んだ主人公が、様々な国を舞台にして起きる事件や紛争を解決していく交渉の過程を描いており、ポップなタッチながらも骨太な内容で、面白く勉強にもなる漫画です。是非一度手にとってみてください。

さて、私は2024年1月にタイの首都バンコクで開催されたマヒドン王子記念賞会議（以下PMAC; Prince Mahidol Awards Conference）という国際会議に参加してきました。PMACとは、タイ王室が主催する20年以上の歴史をもつ権威あるグローバルヘルスに関する国際会議で、その年の重要な健康課題について議論が行われます。毎年タイムリーか



つ革新的なテーマを掲げて開催されていますが、2024年のテーマは「Geopolitics, Human Security and Health Equity in an Era of Polycrises: ポリクライシス（複合危機）の時代における地政学、人間の安全保障、そして健康の公平性」というものでした。

一読しただけではよく分からないテーマなので、噛み砕いて説明したいと思います。いま世界では、ウクライナやガザにおける紛争などの地政学的対立にもとづく複数の危機的状況が同時多発的に起こっています。またアメリカと中国の対立が長期化しており、様々な影響が各方面に出ています。そういう状況のことをポリクライシスと呼ぶそうです。そんな国際情勢の中で、人々の健康はどういう影響を受けているのか、そしてそれにどう対処すればいいのか、というのが今回の会議の主要なトピックでした。

地政学的リスクが国際的な健康課題に影響を与えると突然言われても、全くイメージが湧かないかもしれません。例えば、新型コロナウイルスの流行初期の頃の2021年7月にアメリカのトランプ政権は、米中対立を背景に世界保健機関（以下WHO）から脱退するということを通知しました。バイデン政権に交代した後に撤回されましたが、このように国同士の対立で世界の保健政策を司る組織の体制が揺らいでしまうと、最終的にはその影響が人々の健康に影響が出てしまうことが想像できるかと思います。他にも気候変動の問題も一例です。地球温暖化によって、感染症の流行分布の変化や、自然災害の激甚化などによって、様々な公衆衛生への影響が発生します。温室効果ガスの排出削減など各国が協調して取り組むべき問題ですが、そこには各国の国益や地政学的対立をめぐる思惑が交錯し、なかなか合意形成に達することが困難なこともあります。

以上のようなことが今回のPMACでは議論されており、もともと学生の頃から世界史や国際政治に関心があった私としては、大変興味深く議論を聞くことができました。私が所属している国際医療協力局では、低中所得国への医療技術協力を中心に活動することが多いですが、WHOの意思決定機関である世界保健総会をはじめとした様々な国際会議にも積極的に参加しています。現在のグローバルヘルスの潮流を掴み、そこで議論されている内容を把握し

て日本に還元したり、あるいは国際社会に対して日本の立ち位置を示すことでグローバルヘルスの向上に寄与するといったことを目的としています。

今回のPMACのテーマは、日本にとっても対岸の火事ではなく、台湾有事などの地政学的リスクが現実的になりつつある昨今、万が一そういう事態に陥った時にどのように医療体制を維持するのか、医薬品のサプライチェーンをどう保護するのかなど、来るべき健康危機に備え、病院機能をはじめとした保健システムをどう構築していくのかを議論しておくべきでしょう。このような視点を新たに獲得することや、そのトピックに対して理解を深めることで、次世代の事業構想に活かしていくことも我々の重要な職務です。

少し話が難しい方向にいつてしまいましたが、冒頭で紹介した漫画で、実は個人的に一番好きな部分は、物語の随所で各国のローカルフードがとても美味しそうに描かれることです。例えば、第2巻のタンザニア編で描かれるムトリという料理用のバナナを煮込んだスープの描写はコチラ。「バナナのポタージュとでも言おうか…甘味はなく程よい塩味に十分なコク。一絞りのライムと何と相性のいいこと…」。いつかタンザニアに行ったら試してみようと思うくらい美味しそうです。ちなみに、今回の出張で私がかつても感動したタイグルメは、ホイ・クレン・ルアックと呼ばれるタイの赤貝？を茹でたもので、それをパクチーや唐辛子、ニンニクなどを加えたナムチム・タレーという特製ソースで和えて頂くというもので、ビールとの相性は最高でした。（漫画のように美味しそうにグルメレポートできない語彙の乏しさが悔しいですね…）

出張先の様々なローカルフードを経験しておく、国際協力の活動を行う上でいざという時に役に立つなんてことがあります。自分が訪れたことのあるコンゴ民主共和国で、現地の少し気難しい偉い人とのコミュニケーションに困っていた時に、意外と現地食の話題がとっかかりになって盛り上がったなんてことも。真面目に仕事の話だけしてはきくと開けない扉でした。関心の濃淡はあれど、誰にとっても食べるということは共通の行為ですし、相手国の食文化を尊重するということはその国の積み上げてきたものを尊重するということにも繋がると思います。言葉はうまく伝わらなくても、そういう

姿勢や態度が伝わることで、信頼関係が生まれていくのかもしれませんが。上述したように、分断や対立といった厳しい国際情勢に直面する現代ですが、誰もが各国の多彩な食文化を自由に楽しめてお互いを

尊重できるような融和的な世界になってほしいなと心から願いつつも、私自身は微力ながら引き続きグローバルヘルスの向上のために頑張っていきたいと思います。

